

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成25年8月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要 【前月からの動き】

※下記の数字は情報連絡員からの回答数を表します。

（「好転(上昇、増加)」、「不変」、「減少(悪化、低下)」の3択回答のうち、「不変」を除く「好転」又は「減少」の回答数）

前月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は5から2に減少。「減少した」業種は4から11に増加。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は12のまま変化なし。「減少した」業種は8から9に増加。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は6から4に減少。「悪化した」業種は7から8に増加。

前年同月比

- ▶ 製造業では、売上高において「増加した」業種は2から3に増加。「減少した」業種は5から7に増加。
- ▶ 非製造業では、売上高において「増加した」業種は10から8に減少。「減少した」業種は8のまま変化なし。
- ▶ 業界の景況では、「好転した」業種は8から5に減少。「悪化した」業種は10から9に減少。

製造業

豆腐製造

【県内全域】

例年夏に売上が減少するが、今年も予想通りの落ち込みだった。

酒類製造

【県内全域】

猛暑の影響下で、清酒販売は低調。政府の日本産酒類振興策の効果で、輸出関係やイベント関係で商談の機会は増加。

製材

【木更津】

8月は南洋材の入港が1船のみであった。ロシア材は入港なし。全体的に円安によるコスト上昇が影響している。

印刷

【県内全域】

8月の売上は7月より悪化。猛暑の影響や夏休みの特需関連で一部稼動したが、各社は夏季特別休暇を含め2週間余り稼動しない状況で、特にお盆休暇後の受注減少が顕著であった。少子高齢化・デジタル化による影響で、受注件数や数量減少による価格競争が一段と激しくなっている。

電気鍍金

【県内全域】

政府の「経済報告」を散見すると、厳しさが残るも改善しているとしているが、中小企業は依然として改善の兆しが見えない。本組合の8月の生産額調査結果は、前年同

月比25%減となっている。

鉄工

【千葉】

全体景気回復の中で、さすがにここに至り「業況悪化」とする企業はいない。組合員の大半を占める中小製造業において、「さらなる回復進展を実感したい」が各社の本音。

機械部品製造

【野田】

夏季休暇等で、売上減少。業界動向も悪化傾向にある。

機械部品製造

【流山】

仕事が減少している業種があり、景気が上昇している感じはない。

機械部品製造

【柏】

8月以降前半の低調を取り戻す動きに入り、受注増の傾向にはあるが、短期限定的。但し、得意先中心に変化に対応することにより、中小には機会は増えている。

統廃合、廃業、内製化等の動きが継続的に増えている。

金属製品製造

【船橋】

お盆休暇により、流れ仕事は低調、連休関連の仕事は多少受注はあったものの、総合的に伸び悩み。

採石

【県内全域】

先月比減少。9月以降若干見込めるものの、今後も前年度並の回復は厳しい。アベノミクスの波

及効果は殆どない。

【土砂採取】

【県内全域】

全体的には、先月比では概ね変わらない。しかし、若干であるが動きのない地域でも、設備操業度が上昇してきたとの報告もある。前年同月比ではやや販売価格の上昇や、雇用人員の増加や景況が好転してきた地域がある。

非製造業

【総合卸売】

【千葉県・東京都】

【家電卸】猛暑により業務用・家庭用ともクーラーの出荷増加・一時品薄状態になる。取り付けの工事業者も多忙で、人出不足の状態にあった。

【建築材料卸売】

【県内全域】

東北前年比130%に加え、東海・近畿・九州・沖縄前年比10%以上伸びている。関東も平均すれば若干プラスであるが、都心部に需要は集中している。千葉県内も総出荷は増えている。但し、西部地区及び中央地区の一部の大型工事のみで、地域差が大きく、全体収益としては未だ好転は感じられない。業界動向は、セメントはピーク時の半減した生産供給合理化システムに移行済みで、需要急増しても安定供給に支障懸念。在庫逼迫

必至。秋口からセメント本格値上げ攻勢が予想されるが、値上げしても供給体制輸送ネットワークが問題、合理化が進み、人出不足が解消できない。

【自動車解体】

【県内全域】

在庫量は変化なし。スクラップ単価上昇により、景況はやや好転。

【小売】

【茂原】

景況は何か変である。一時的には好影響に思えたり、不況に見えたりする。気持ちの持ち方か。一部の人々でしかないような気もする。小売店の後継者問題等で、大型店に押され、売上も伸びない状態が続いている。

【小売】

【柏】

仕入価格の上昇が認められる業種もある。

【電気機器小売】

【県内全域】

7、8月の猛暑で、例年になくエアコンの需要があった。ただ他の商品が売れなかつたので、トータルで前年とあまり変わらずか、下回ったと思われる。

量販店も売上が伸びずに苦戦している模様。新開発の4K、8Kテレビも現在のテレビ不振の解決に結びつかないらしい。

【青果小売】

【千葉】

猛暑の影響で相場が上昇したため、売上増となった。しかし、経費上昇とロス増加に伴い、収益はほぼ横ばいといった感じ。夏商品の動きは良かったようである。

【中古車仕入・販売】

【県内全域】

タマ不足による成約率アップが顕著で平均単価も上昇。さらに輸出も好調で、増加が続いている。解体車が多く生きたタマも減少。

【小売】

【東金】

暑い夏が続く、7月からのパーゲン商品の販売となり、客単価は下がってしまった。暑すぎて昼間の客足が鈍く、夕方に人通りが増える日が続いた。ファッション関連品は、パーゲン品のみの動き。食品関係は野菜等が暑さの影響で生産過程で不要が多く、品薄、価格上昇となった。日用品は低調。

【小売】

【野田】

7月後半から猛暑が続く、夏物商品が売上を伸ばした。しかし、個人消費は低価格帯が主流で、購買意欲の上昇は感じられない。

【小売・サービス】

【柏】

猛暑による客足の低迷が大きく左右した。日中の来街者数が極端に少ない。特にお盆過ぎに一度涼しく成った後の残暑が効いて後半

売上を大きく落とした店舗が多かったようだ。

【建設揚重】

【県内全域】

全般的に稼働率はキープしている。材料、燃料費が増加している。

【遊覧船】

【鴨川】

前半は、天候に恵まれ客足が伸びたものの、月末台風等の荒天があり伸び悩んだが、前年比をやや上回った。

【一般廃棄物処理】

【千葉】

前月、並びに前年同月と比べると廃家電の取扱量は若干下回ったが、それ以外は同じような状況となった。8月は前月と比べると景気が悪化することが多いが、現状を保ち来月に期待したい。

【ソフトウエア】

【県内全域】

全般的に景気の回復を感じているが、安定性に欠ける感がある。

【建設】

【県内全域】

当連合会加入組合員の受注は14、767百万円であった。これは、前月比で608百万の減少であったが、前年同月比では4、732百万円の増加となっている。

【輸出入】

【県内全域】

8月は前月比、前年同月比とも増加し、少し景況感がよくなった。